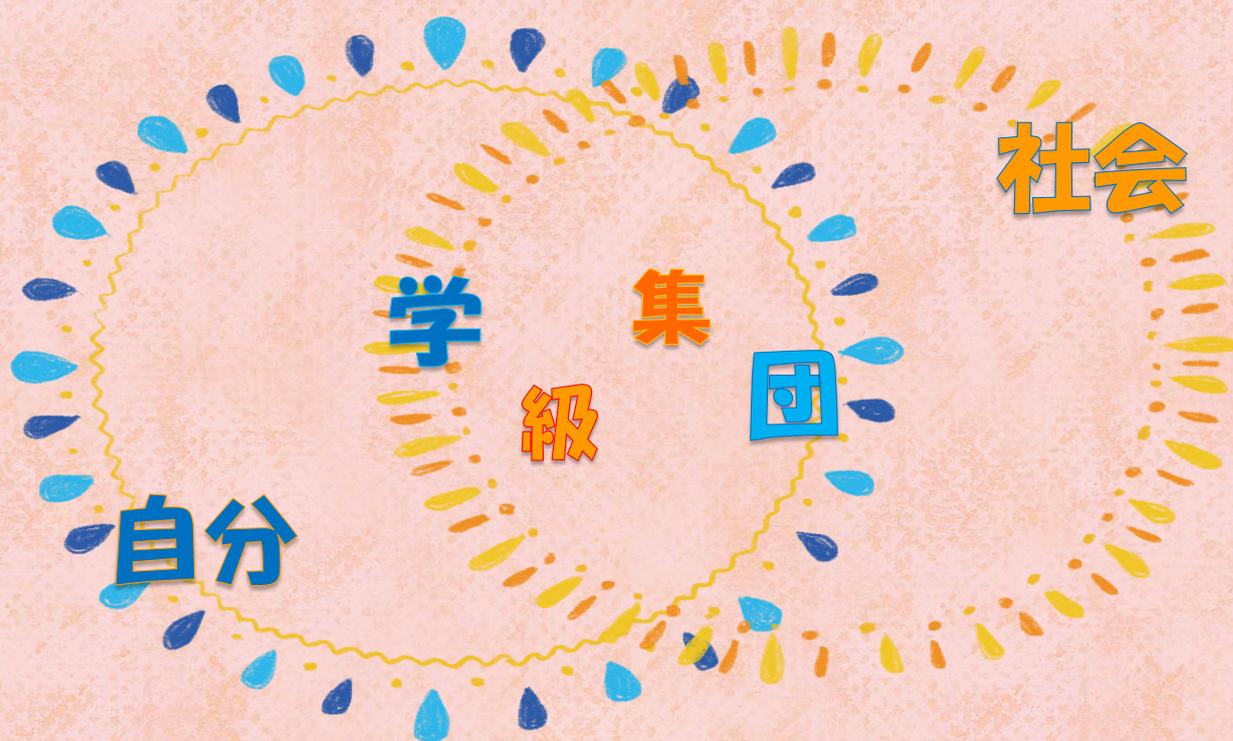


学級活動を中心とした

学級集団づくり



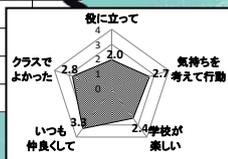
児童の活動前

児童の実態把握・目標設定

- ① 学校教育目標, 学年目標, 学級目標を確認します。
- ② 教員の見取りと児童アンケート等から学級の問題を整理します。

児童アンケートや, クラスマネジメントシート等を活用した客観的な見取りを
児童アンケート

アンケート内容	あてはまる	あてはまるかというところ	あてはまるかというところ
わたしは, クラスの人の役に立っていると思う			
わたしは, クラスの人といるとき相手の気持ちを考えて行動していると思う			
わたしは, 学校に来るのが楽しいと思う			
わたしは, クラスの人といつも仲よくしていると思う			
わたしは, このクラスになってよかったと思う			



詳しくは,

[総合教材ポータルサイト](#)



計画

年度当初に立てた学級活動の年間計画を基に計画し, 活動の中で児童のやる気を育む工夫を取り入れます。



児童のやる気を育むことを意識して

ポイント2 学級活動とその他の教科等と関連付けた計画を行い学びを生かす

3つの視点を意識した関わりを行う

- ポイント1**
 - ① 意思決定, 合意形成の場をつくる
 - ② 自己存在感や自己有用感を得られる場をつくる
 - ③ 共感的な関わりをする

児童の活動

① 問題の発見・確認

学級をよりよくするために, みんなで取り組みたいこと, 解決したいことなどの課題を児童自ら見出せるようにします。

課題を見つけるために

- ・学級目標実現に向けてどのようなことができるか
- ・学級をより楽しく充実させるためには
- ・雨の日の休み時間を楽しく安全に過ごすためには



児童の実態に応じて, 教員がアイデアを出しながら児童の気付きを促す工夫をし, 徐々に児童自身で課題を見つけられるようにします。

個人のめあての設定

個人のめあて
振返りシート



個々のがんばりが, 学級全体の目標の達成につながることに気付くよう, 結果を集計し可視化します。

わくわく大作戦

名前 _____

〇わくわくオウムフェスティバルに向けて自分のがんばることを2つ書いてみよう。

①積極的に話し合いに参加し意見を言う。

②自分のやることがおわったらほかの人の手伝う。

チェックシート
11/15/3 時間目

〇今日の活動の中で, 自分のめあてはどれだけ達成できましたか, がんばることについて

できなかった できなかった がんばることについて できなかった できた

みんながんばったことや次の活動に向けてがんばることなどみんなで話し合い活動できよう話し合えた。



ポイント2 意思決定の場

自分のめあてを自分で決定し, 活動ごとに振り返ります

② 話し合い活動



課題解決に向けて、児童が話し合います。ここでは、多数決のみに頼らない決定をしていくことが大切です。意見の対立を経て合意形成に至る過程で、自分にとってもみんなにとってもよい考え方の基本が育ちます。



児童の力による合意形成を

意見の対立

助言は必要最小限に

もう一度議題にもどってみよう！

合意形成

ポイント1 学びを生かして

4年 国語科「話し合いのしかたについて考えよう」
5年 道徳科「相手の立場も大切に」など

ポイント2 自己有用感を得られる場

計画委員が進行し、一人一役の役割分担を行う

③ 準備



話し合いで決まったことを基に、準備をしていきます。この時間は、児童の関わりが多く、集団づくりにはとても大切な時間です。

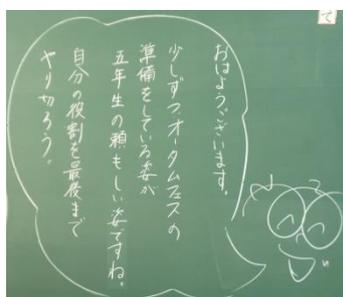


児童のやる気を育む環境整備を

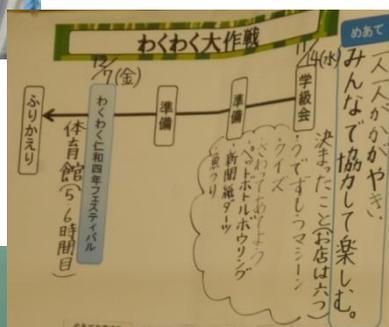


材料・道具の整備

時間・物・場所



やる気を育むメッセージ



予定表の掲示

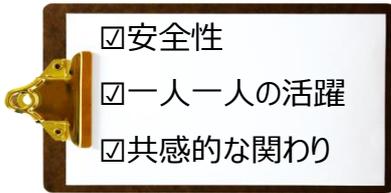
ポイント2 意思決定の場

児童自身で声をかけ合い、活動していくことが大切です。

④ 実践（集会活動）



児童が協力し、実践する場です。



目標に応じた活動の工夫を

<活動例>

① 学年でお店を開き、

教職員の方を招待

▶ポイント1 学びを生かして

図画工作 4年「幸せを運ぶカード」
招待状を作成します。

▶ポイント2 共感的な関わり

教員が心から楽しむ姿が、児童のやる気につながります。



▶ポイント2 自己有用感を得られる場

活動を通し自分の役割を意識し、互いに認め合える場を工夫します。

② 学級オリンピック

▶ポイント2 自己存在感を得られる場

児童の個性などいろいろな側面が見られ、お互いを認め合える場になります。



メダル授与式

⑤ 振り返り

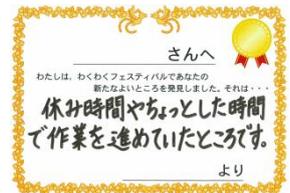


「次はもっとこんなことをしてみたい」といった児童の思いを引き出すことが、次の活動のやる気につながります。

▶ポイント2 自己有用感を得られる場

「がんばったところみつけ」

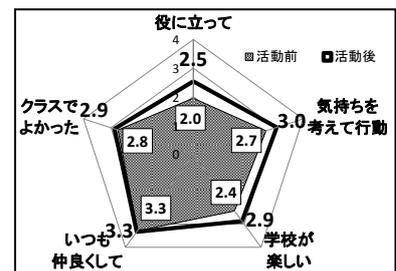
お互いのがんばりを認め合う場を設定します。



児童の活動後

活動全体の振り返り

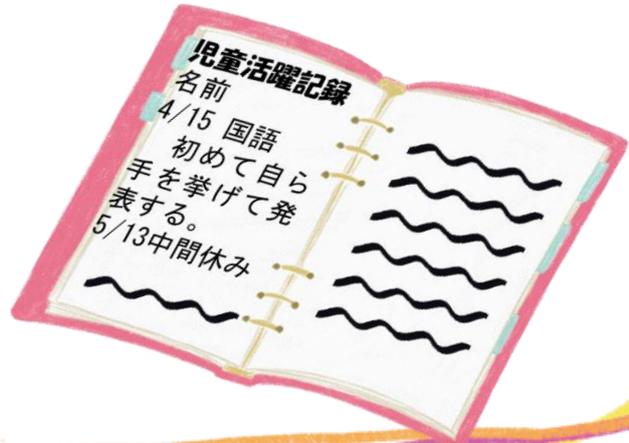
活動前後の児童の変化を見取り、体験を生かす次のステップにつなげます。



児童アンケートの分析

児童理解

児童の活動を支えていくのは、教職員による児童理解です。普段の教育活動の中でちょっとした児童の変化に気づき、機会を逃さずに共感的にほめたりはげましたりすることが、児童のやる気につながります。また、そのような教職員の寄り添う姿が、児童相互の共感的な人間関係を育成することにつながります。



学級集団づくりのために

朝の会のスピーチ等の時間を利用し、親和的な学級集団へと高める仕組みを取り入れてみましょう。

例「わたしはだれでしょう」

日直が文章を読み、それをヒントにだれのことかを当てるクイズ形式のものです。「先生から見て」という欄を設け、共感的な関わりの場となります。

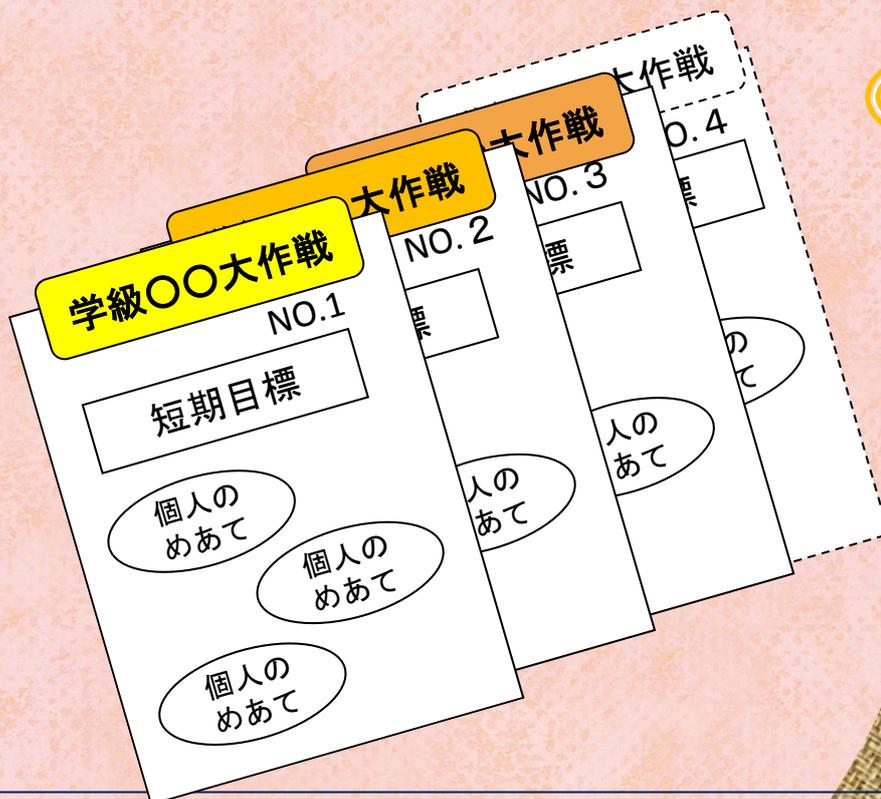
わたしはだれでしょう		
名前		
① わたしは、	運動	が得意です。
② わたしは、	勉強	をがんばっています。
③ わたしは、	のびのび太	に似ています。
④ わたしは、	まじめでの人気な	性格です。
⑤ わたしは、	どんなことも行き当たりばったり	です。
下は先生が書きます		
⑥ 先生から見てわたしは	普段は真面目で、 運動も勉強も、ドントい! けど、実は面白いことが 大好きで、 ジョーセンばかりしています。	

生きる力

学校教育目標

学年目標

学級目標



京都発！確かな教育実践のために 35

児童相互のつながりを大切にした学級集団づくり

-学級わくわく大作戦を通して-

発行 平成31年3月

発行元 京都市総合教育センター

研究課・カリキュラム開発支援センター

〒600-8023 京都市下京区河原町通仏光寺西入ル

TEL 075-371-2705 FAX 075-353-4851



詳しくはこちらに